

IGFに期待すること: セッション企画者からの報告

小林 茉莉子 / 中島 博敬

mercari

WS 324: The Open, Free Internet is for EVERY stakeholder

- **テーマ: インターネット上の自由な情報の流通**
 - 背景: 各国におけるインターネットシャットダウン、フィルタリングを始めとする規制やネット中立性等
 - これらの議論は対立構造を生む傾向
 - 具体的な解決策の提示につながりにくい
- **登壇者: 各国・地域の企業、国際非営利組織、国際機関の関係者**
- **目的: オープンで自由なインターネットが経済・市民社会・教育に与える良い影響を議論・提示**

登壇者

登壇者名	所属	ステークホルダー	国・地域
Sanja Kelly	Freedom House	Civil Society	WEOG
Thomas Grob	Deutsche Telekom	Private Sector	WEOG
Guy Berger	UNESCO	Internal Organization	WEOG
Olivier Bringer	EU commission	Internal Organization	WEOG
Lillian Nalwoga	ISOC Uganda chapter	Tech community	AFRICA

議論内容

セッション内でコンセンサスがとれたもの:

- **インターネット:様々な領域にとって重要なプラットフォーム**
 - ビジネス、教育、政治的対話
 - 自由な情報・アイデアの流通、表現の自由、社会の発展、技術発展
- **ユーザーは以下の自由を保持。ISPはこれを妨げてはならない。**
 - コンテンツ、アプリケーションへのアクセス
 - サービス選択

議論内容

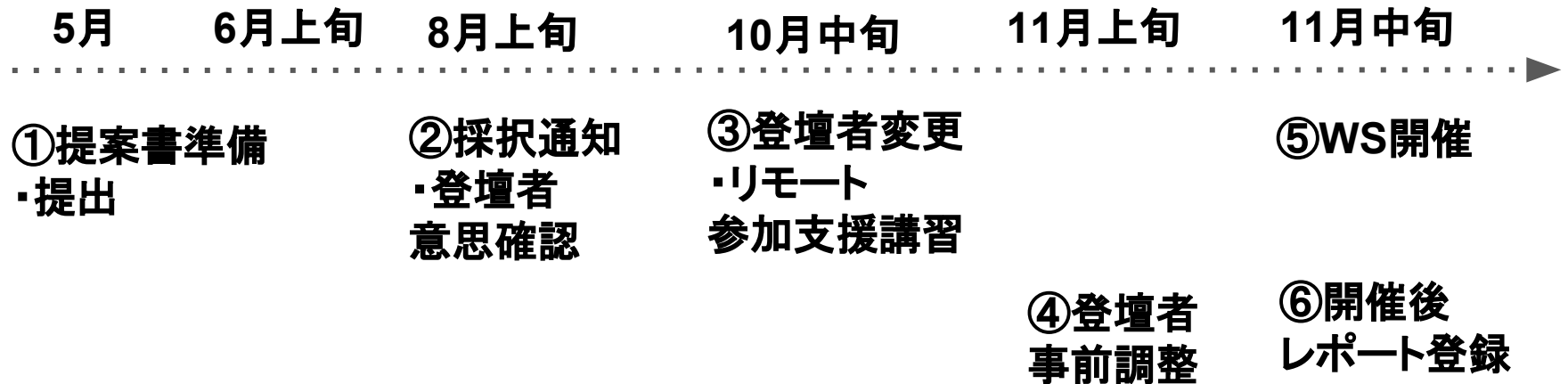
検討事項として挙げたもの:

- **政府: 自由なインターネットは前提とするが、違法なコンテンツは takedown notice 等により対処する必要**
 - 万が一誤ってコンテンツが削除された場合、速やかに対応できるような効果的な法的救済を用意する必要
 - 会場から: あくまで検閲の形にならないよう尽くすべき
- **市民社会・政府: 技術コミュニティ外の人々が技術コミュニティへ接触することが難しい(手段がわからない)**
 - 各国・各地域のローカルの技術コミュニティ (ISOC 支部・NIC・NOG 等) との繋がりが重要

結論

- オープンかつ自由なインターネット: 経済・教育・政治的対話・文化活動
にとって必要不可欠
- フィルタリング、ブロッキング、インターネットシャットダウン、ネット中立
性等の課題を扱う際:
 - ×: 政府によりトップダウンで処理
 - ○: マルチステークホルダーで議論
 - 各ステークホルダーが懸念を明らかにし、各コミュニティにとってより
良い解決策を導く(連帯債務)

セッション企画・開催スケジュール



①準備・提出

1. ワークショップ提案書

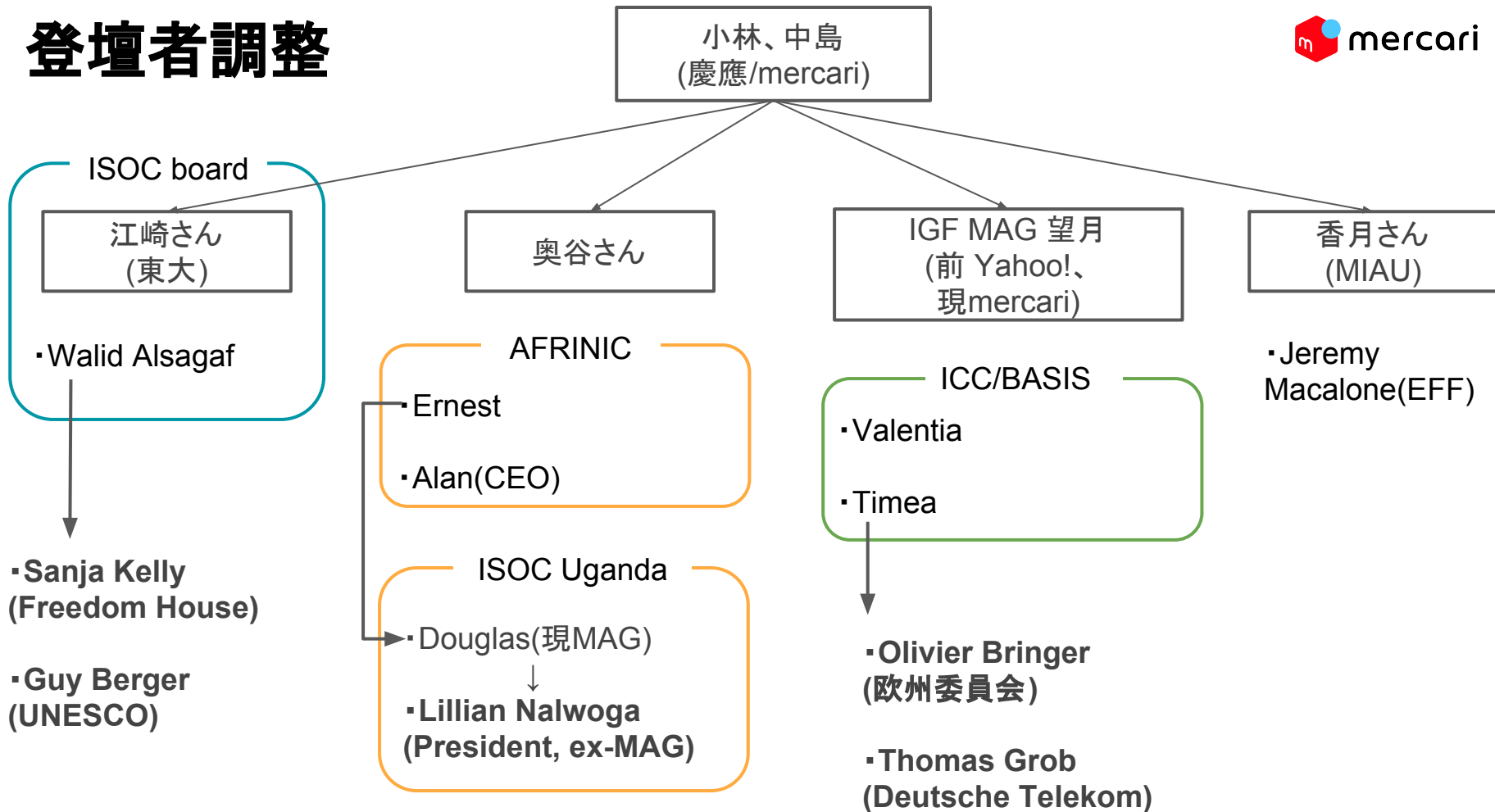
- 内容: 政策課題、アジェンダ、登壇候補者、オンライン・リモートでの参加支援の方法等
- この時点では登壇候補者はconfirmed/proposedでも○

2. 背景を補足するBackground paper

- 5枚程度を用意
- 各国における、インターネットシャットダウン、フィルタリング・ブロッキング・ネット中立性の背景
- 中島・小林も参加したWIDE・ISOC日本支部のブロッキングに対する声明の英訳を参考程度に

1・2は登壇者調整時に添付できるよう予め用意

登壇者調整



②採択通知・登壇者意思確認

- 採用通知:8月初旬にメールにて受信
- その後、登壇候補者に出席可能か再度確認

③登壇者変更・リモート参加支援講習

- **登壇者変更**
 - WS開催一ヶ月前に、アフリカ・技術コミュニティ登壇候補者からIGF不参加の連絡
 - 代わりに同地域の知り合いを紹介してもらった
 - IGF MAG委員→ISOCウガンダ支部 presidentへ変更
- **リモート参加支援講習**
 - IGF事務局によるWebexの使い方講座
 - 複数人数参加型のテレコン形式で受ける
 - 1時間程度

④登壇者事前調整

各登壇者と個別にテレコンを行った

- 10月下旬頃
- 各登壇者につき個別に15分程度
- 手段: WebexやSkype、Google hangout等
- 自己紹介+こちら・先方からの要望等ヒアリング
- あくまで中身までは詳しく話さない: 当日に議論する内容を残しておくため

⑤ワークショップ開催

- **開始前:**
 - IGFWebページにトラブル(攻撃があった?):朝一ということもあり、参加者が揃うまで待った
 - 10分ほど遅れて開始
 - 登壇者が一名到着が遅れた
 - 柔軟に登壇者に話を振るタイミングを変更
- **ワークショップ中:**
 - APriIGFと比べ、全体的に参加者の発言を促すのが困難だった
 - 政府関係者の参加は多かったものの発言は少なかった
- **ワークショップ後:**
 - 記念撮影
 - 登壇者にご当地キットカット配る:喜んでもらえる(APriIGFでも成功した試み)

⑥開催報告レポートの提出

- 2018年より開催後レポートの提出が厳密に
 - 狙い: 報告義務の強化
- Short reportの提出: ワークショップ開催後12時間以内
 - 2-300 words程度
- Long reportの提出: ワークショップ開催後2週間弱
 - 4-600 words程度

Summary

背景の内容の練り

- 他のWS提案者と被らないトピックが◎
 - 2018年はFake News多め？
- 文章は簡潔かつある程度の分量はあった方が◎
- Background paperは添付すべき◎

登壇者の調整(一番重要)

- ステークホルダー、国・地域、ジェンダーのバランスを加味
- 国内外の知り合いに人づてで紹介してもらう
 - ISOC、IGF MAGの日本人ボートメンバーや委員の助けを借りる
 - すぐに登壇の可否の返事が得られない場合が多い: 余裕を持って声かけ